

マンシヨン育ち 野菜出荷

西区の有田さん工場 障害者も雇用

札幌市西区発寒7の5のマンシヨン内にある野菜栽培工場で、人工栽培による出荷が始まっている。密閉した無菌状態の中で発光ダイオード(LED)照明で育てるため①無農薬栽培の安定した出荷価格②などが特徴だ。工場は障害者の雇用の場をつくるため、元NTT職員の有田昌利さん(53)が始めた。(古田夏也)

LEDで光当て栽培

取引先「鮮度良い」

マンシヨン1階にある工場は「はつさむ工場・ぴゅああーむ」。約60平方メートルの野菜栽培室は、水耕栽培で無菌状態を維持。温度や湿度もエアコンで一定に保っている。太陽光の代わりに省電力のLEDを用い、発芽を促す青と、生育を促す赤の照明を切り替えながら育てる。レタスとベビーリーフ、バジルの3種類を栽培。レタスは1日60玉を出荷できる。工場を設立した有田さんは高校卒業後、NTTに勤務。技術職として、電話工事やシステム開発などを手掛けた。



工場栽培したレタスを手にする有田昌利さん

てきた。50歳を機に弱者を助ける仕事をした」と退職し、NPO法人を設立して障害者の就労支援に携わってきた。

ラン♪春本番

管内各地 今年最高 札幌で16・4度

石狩管内は23日、本州から高気圧が張り出した影響で気温が上がった。千歳市が今年最高の17・3度、札幌市も16・4度を観測した。管内は4月下旬から5月下旬並みの陽気となった。

札幌管区気象台によると、午後5時までの最高気温は、恵庭市島松が16・2度、江別市が15・1度、石狩市が14・3度など。管内の10観測地点のうち、石狩市浜益を除く9地点で、今年の最高気温と

目の当たりにしたのを始めた。栽培した野菜の評価は、働きたくても働けない障害者が多い現実だった。首都圏で増えている人工光型の野菜栽培工場に着目し、「受け皿をつくるしかない」と動き始めた。貯蓄や退職金など自己資金2500万円を投じ、2月に工場が完成。知的障害のある男性(26)を含めた3人を雇い、4月12日から出荷を始めた。

頭では小売りも行い、レタスは1玉198円、ベビーリーフも1袋(30袋)198円。年中、価格は変わらない。5月までに障害者をさらに2人雇用する計画だ。有田さんは「街中の野菜工場を根付かせ、障害者が安心して働ける場にしたい」と意気込んでいる。

長袖をたくし上げて走り回る子供の姿も目立った。管内は24日、本州からの低気圧が接近する。日中は曇り、夜からは雨が降る見通しだ。(久保田昌子) 笑い声を上げながら走り回る子供たち。23日午後2時55分、札幌市中央区の公園では、



たそがれ野球 来月18日開幕

43チーム出場

第60回たそがれ野球大会(札幌軟式野球連盟、北海道新聞社主催)の組み合わせ抽選会と開会式が23日、札幌市中央区の中島体育センターで開かれた。大会は昨年より2チーム多い43チームが出場し、5月18日に開幕する。抽選会は各チームの代表がくじを引いた。職場の仲間や大学生でつくる各チームは、9月23日までの土日祝日